

令和6年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 6	公益目的事業 16
主査名	井ノ口弘昭 関西大学准教授・武藤慎一 山梨大学教授	
研究テーマ	都市交通システムのカーボンニュートラルに向けたプライシングに関する研究	
<p>脱炭素社会の構築を目指して、カーボンプライシング・排出権取引などの議論が行われている。これらは、炭素排出に対する価格付けであるが、本研究ではより広く捉え、自動車交通・公共交通の各種料金政策とカーボンニュートラルについて検討する。具体的な研究課題を以下に示す。</p> <p>①カーボンニュートラルに向けた課題整理</p> <p>超高齢社会の進展・生活様式変化・自動車交通の電動化などカーボンニュートラルの背景とカーボンプライシングなどの政策的整合が課題となっている。これら近年の脱炭素化政策の相互関係の整理と有効性について、コロナ前後の変化を踏まえた定量的分析と市民意識を基本とした将来的なカーボンニュートラルの方向性を議論する。</p> <p>②日本における電気自動車普及政策の検討</p> <p>各国で、EVの普及政策が進められている。日本の現状では、発電に対するCO₂排出係数が比較的高いこと、車両購入の補助金がないと普及が見込めないこと、ガソリン税に代わる道路整備・維持管理費用の確保など、多くの課題がある。これらの課題を整理し、日本におけるEV普及政策を検討する。</p> <p>③地方圏におけるカーボンプライシングと公共交通サービス</p> <p>自動車依存度が高い地方圏では、カーボンプライシングによりEV普及促進効果が期待されるが、交通手段転換の促進はあまり期待できない。しかしながら、自動車交通への課金額を用いることで、代替交通手段のサービス水準の向上が可能となる。そこで、デマンド型乗合交通等も含む公共交通について、課金水準に応じた適切なサービス水準について検討する。</p> <p>④カーボンニュートラル政策としての運賃政策</p> <p>カーボンニュートラルに向けて、欧州では、公共交通の交通手段分担率を増加させるために、さまざまな施策を講じているが、その中でも、各種割引運賃が導入された。そうした欧州の割引運賃制度をとりまとめ、その効果・課題を検証し、日本での運賃政策の展望を考察する。</p> <p>⑤地方主要鉄道駅からのアクセス交通におけるカーボンニュートラル</p> <p>山梨県甲府市には、リニア中央新幹線の駅が設置予定であり、そのアクセス交通は自動車やバスなどの道路交通が前提で計画されている。このため、道路交通のカーボンニュートラルが必須の課題であり、山梨で研究が進められている水素エネルギーが注目されている。そこで、アクセス交通の充実の検討とともに、道路交通への水素エネルギーの導入可能性を検討する。</p>		